

2018年度

明日を生きる 子どもたちのために



一宮市小中学校 P T A 連絡協議会
一 宮 市 教 職 員 組 合

は　じ　め　に

この度、保護者の皆様と先生方のご理解とご協力により、2018年度「明日を生きる子どもたちのために」を発刊できる運びとなりました。

平成30年7月、活性化する前線の影響で、西日本において記録的な大雨が続きました。各地で土砂崩れや河川の氾濫が相次ぎ、大きな被害とたくさんの死傷者を出しました。他にも、日本各地で地震や台風による大きな被害が立て続けに出ました。被害にあわれた方々がいち早く普段の生活を取り戻すことを願うとともに、命を落とされた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

私たち一宮市小中学校PTA連絡協議会は、この、環境や社会情勢が目まぐるしく変化する現代において、時代の大きな流れに左右されることなく、大人たちが研鑽を積み、子どもたちの健やかな成長を育む環境を、これまで以上に充実させていこうと考えております。

そのための取り組みとして、7月、ファッションデザインセンターにて、2018年「健全育成の会」が行われました。「今、子どもたちのためにできること 一心のかかわりあいを求めてー」というテーマのもと、保護者代表2名と教師代表2名の方々に、それぞれの立場での考え方や工夫、学校・家庭・地域のつながりを発表して頂きました。そして、その後グループディスカッションで保護者と教師の熱心な意見交換が行われ、相互理解とそれぞれの見識を広める事が出来ました。

また、9月には一宮市民会館にて「一宮母と女性教師の会・文化講演会」が開催されました。体操金メダリスト内村航平選手の母、内村周子さんを講師にむかえ、「夢を追い続けて…～諦めない！ポジティブに！いつも元気なその秘訣～」と題して講演して頂きました。

2018年度「明日を生きる子どもたちのために」では、『つながり』をテーマとし、子ども・保護者・教師がそれぞれの立場で大切にしている「つながり」をアンケートを通して探ってきました。いつでもどこでも誰とでも「表面的なつながり」を持ってしまう、ネット環境にある時代の中、人と人との「直接的なつながり」を大切にしたいという思いを共有するきっかけになればと思います。

最後に、家庭・学校・地域の皆様の日頃の活動に厚くお礼申し上げますとともに、さらなるご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年11月

一宮市小中学校PTA連絡協議会

会長 五藤 裕達

目 次

明日を生きる子どもたちのために 『つながり』

I 身近な人とのつながり

① 学校生活について 1~4

II 地域・ネット社会とのつながり

① 地域とのつながり 5

② ネット社会とのつながり 6~8

III 輝く明日に向かって

① 将来の夢・希望について 9~11

② 将来に向かって 11~13

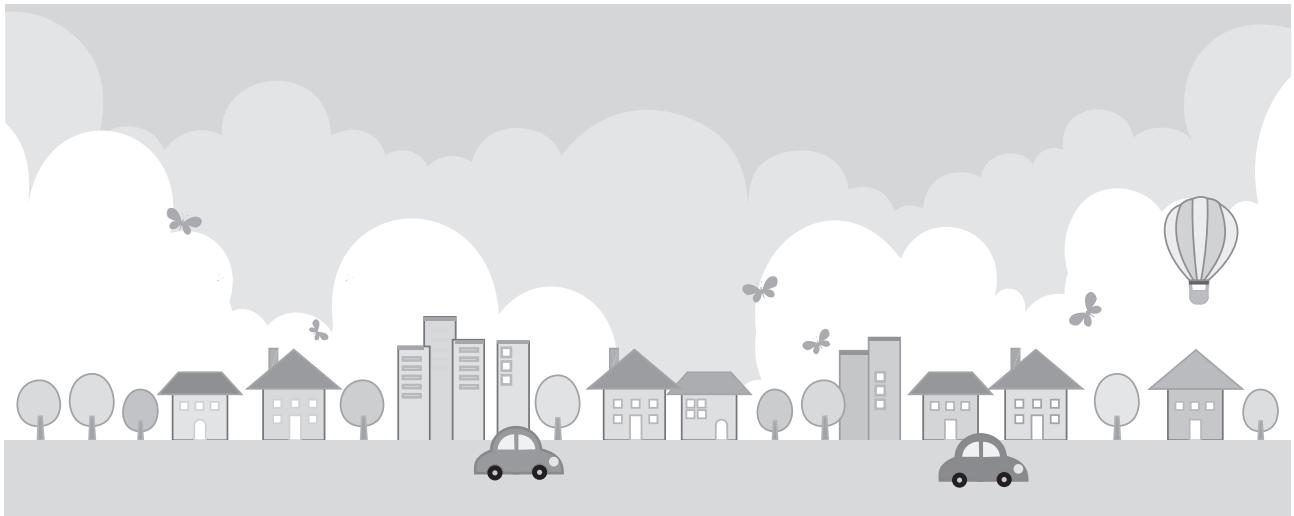
<アンケート対象者>

☆小学生 小学5年生

☆中学生 中学2年生

☆保護者 小5・中2の保護者

☆教 師 小学校・中学校の教師

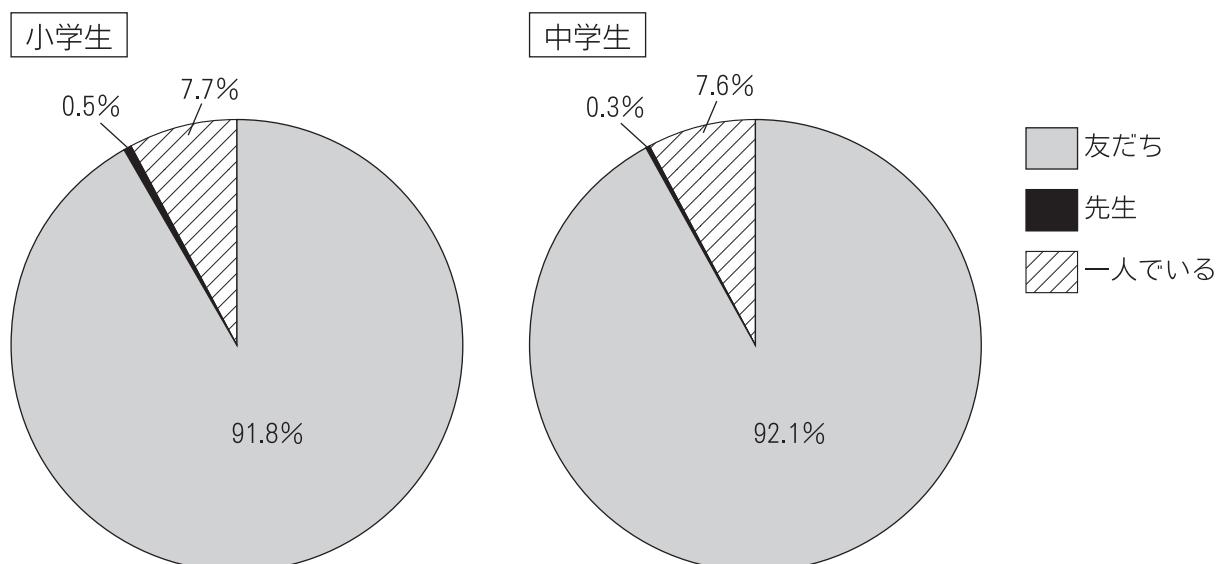


子どもたちは、人とのつながりについてどう考えているのだろうか？

I 身近な人とのつながり

① 学校生活について

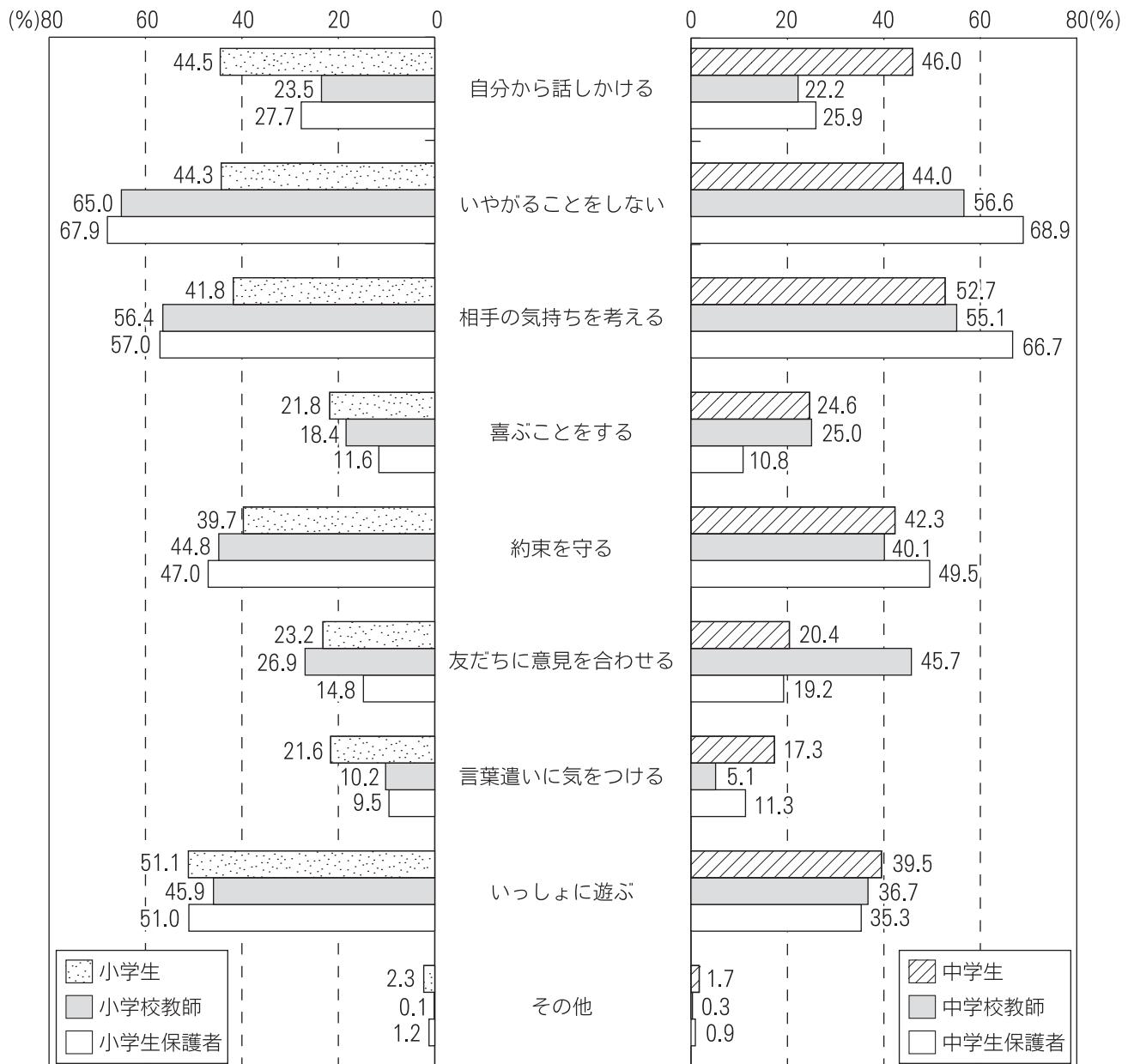
◆ 学校の休み時間は、だれといっしょに過ごすことが多いですか。（小学生・中学生）



9割以上の子どもが“友だちと過ごしますが”，一人で過ごす子どももいます。そのような子どもたちにも目を向けていきたいものです。



- ◆ 友だちと仲よくするために気をつけていることは何ですか。（小学生・中学生 複数回答）
 ◆ 児童・生徒が友だちと仲よくするために、児童・生徒は何を大切にしていると思いますか。
 ◆ お子さんが友だちと仲よくするために、お子さんは何を大切にしていると思いますか。
 （小学校・中学校教師 複数回答）
 （小学生・中学生保護者 複数回答）



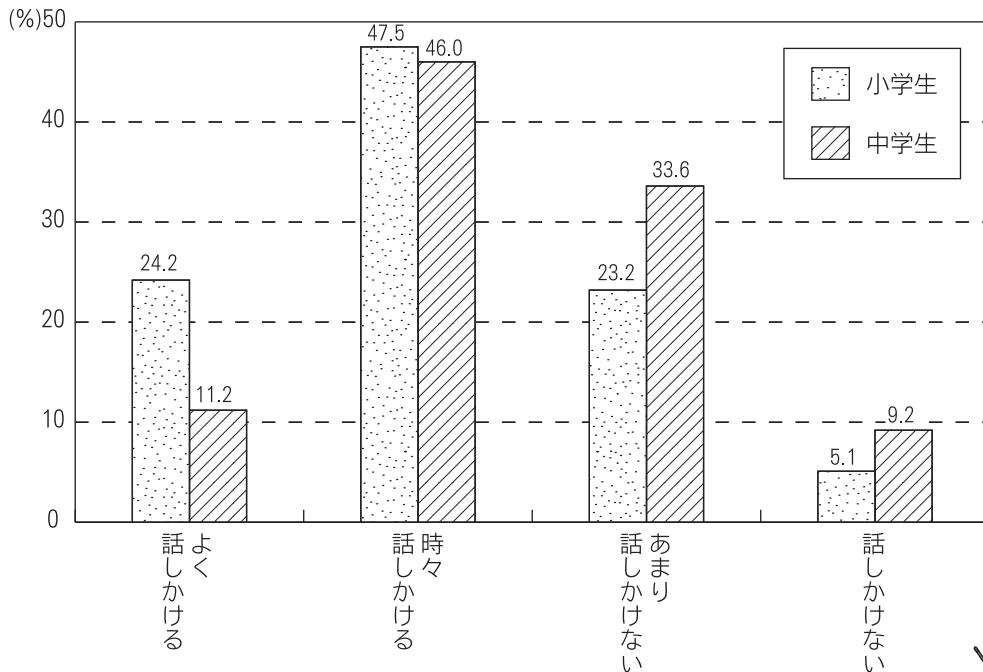
全体的に、小学生・中学生、教師、保護者の間で、考えていることに違いが見られます。

小学生の多くは「自分から話しかける」や「いっしょに遊ぶ」と考えています。一方、教師や保護者は「いやがることをしない」や「相手の気持ちを考える」と多く考えています。子どもは積極的な関わりの中で、人間関係づくりをしていきますが、大人になるにつれて、距離感や配慮を大切にするようになることが分かります。

また、中学生になると、「いっしょに遊ぶ」という考えが減り、「相手の気持ちを考える」という考えが増えています。成長するにつれて、人間関係に悩む子どもが増えているからであると考えられます。子どもの成長に合わせた寄り添い方を考えていくことが大切です。



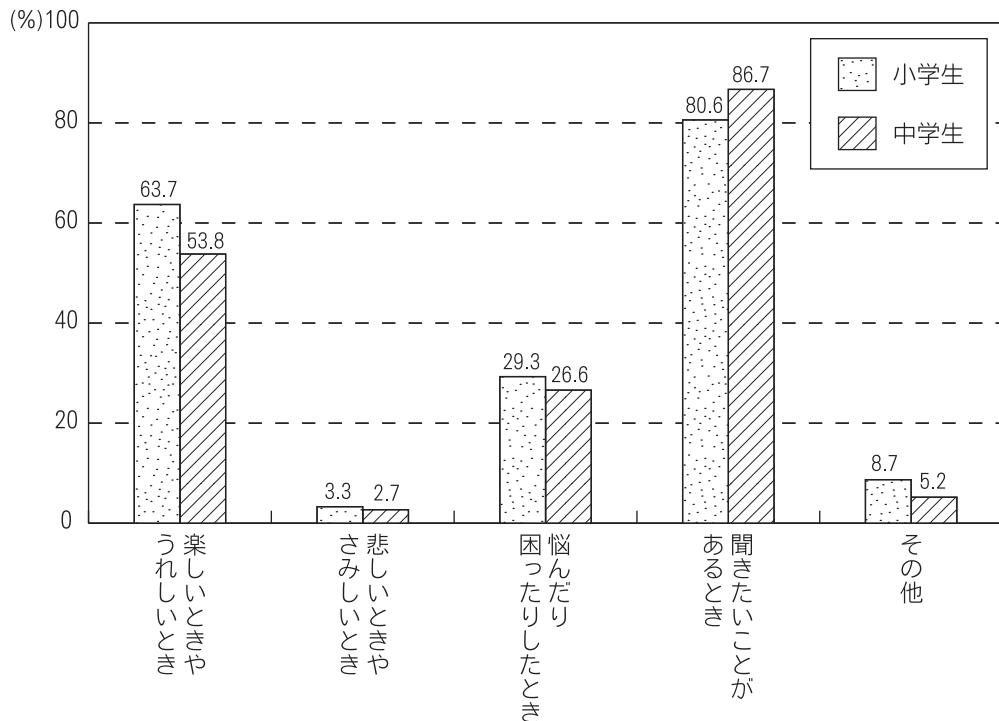
◆ 学校の先生に自分から話しかけますか。(小学生・中学生)



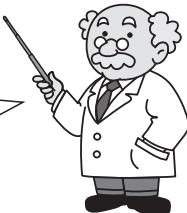
成長するにつれ、教師に話しかける機会が少なくなっていることが分かります。教科担任制になり、子どもと接する機会が減る中学校でも、教師側から積極的に子どもにコミュニケーションをとることが大切だと考えます。



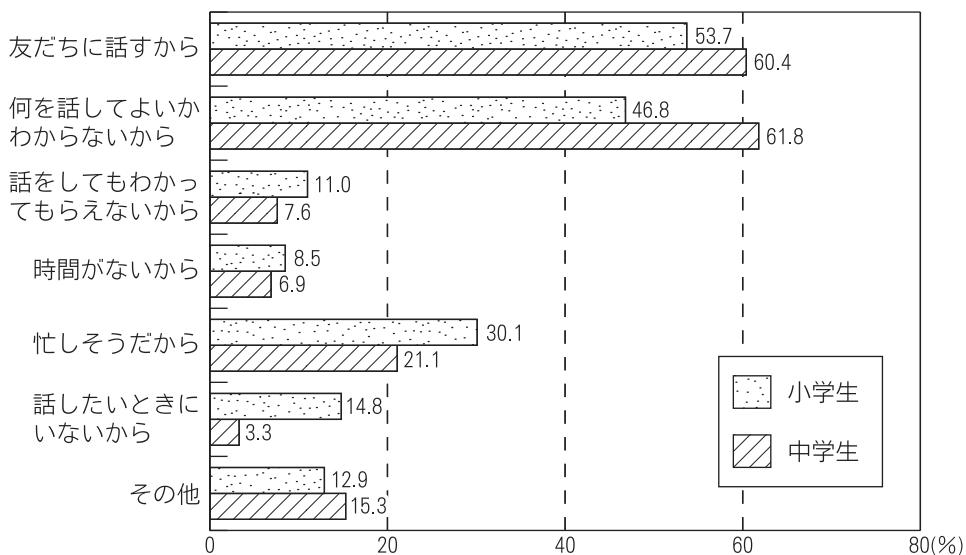
◆ 学校の先生に自分から話しかけるときはどんなときですか。(小学生・中学生 複数回答)



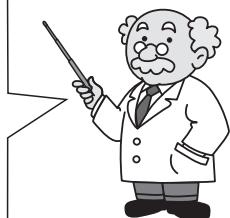
子どもが教師に話しかけるときは、「楽しいときやうれしいとき」、「聞きたいことがあるとき」が多く、「悲しいときやさみしいとき」、「困ったり困ったりしたとき」は少ないことが分かります。子どもの小さな変化にも気づけるよう、普段から子どもをよく観察することが必要です。



◆ 学校の先生に話しかけないのはなぜですか。(小学生・中学生 複数回答)



子どもが教師に話しかけない理由は「友だちに話すから」や「何を話してよいかわからないから」が多くなっています。「忙しそうだから」という理由が少くないことにも注目したいです。教師の子どもとふれあう時間の確保が大変になってきています。積極的に子どもとコミュニケーションを取るなど、その子に寄り添った指導をしていく必要があります。



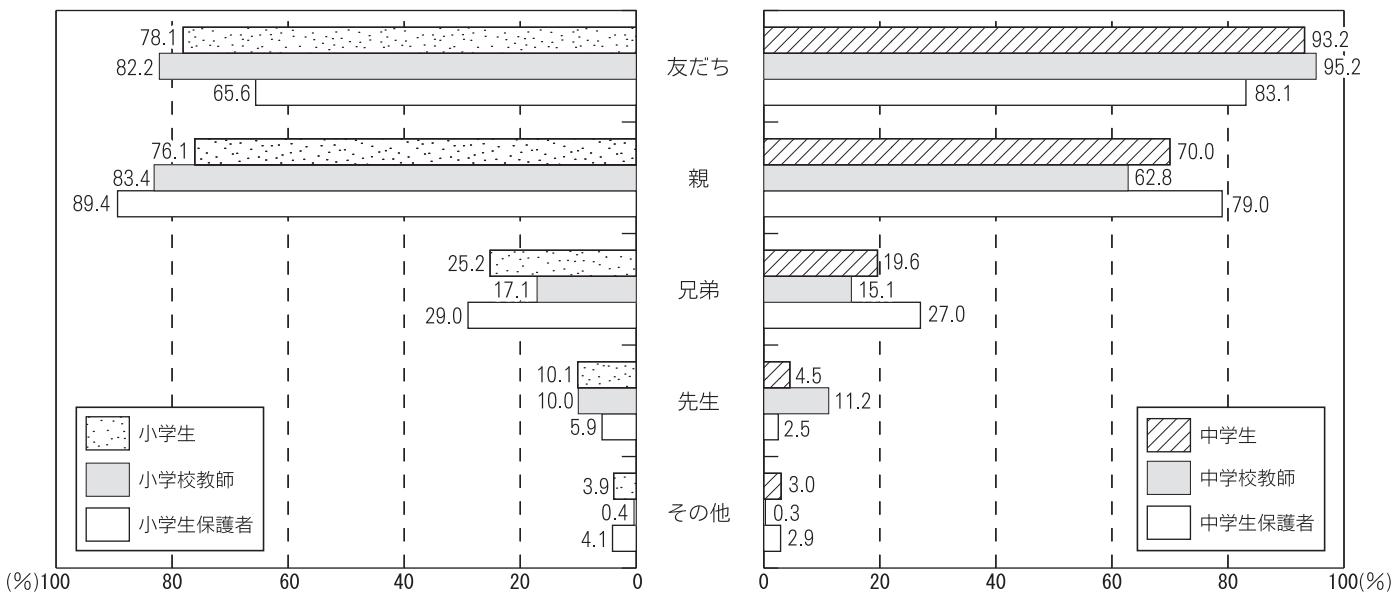
◆ 楽しい出来事があったとき、だれに話しますか。(小学生・中学生 複数回答)

◆ 児童・生徒は、学校での楽しい出来事を誰に話すことが多いと思いますか。

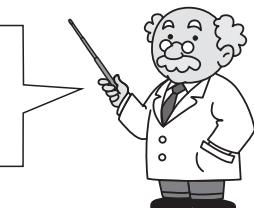
(小学校・中学校教師 複数回答)

◆ お子さんは、楽しい出来事を誰に話すことが多いと思いますか。

(小学生・中学生保護者 複数回答)



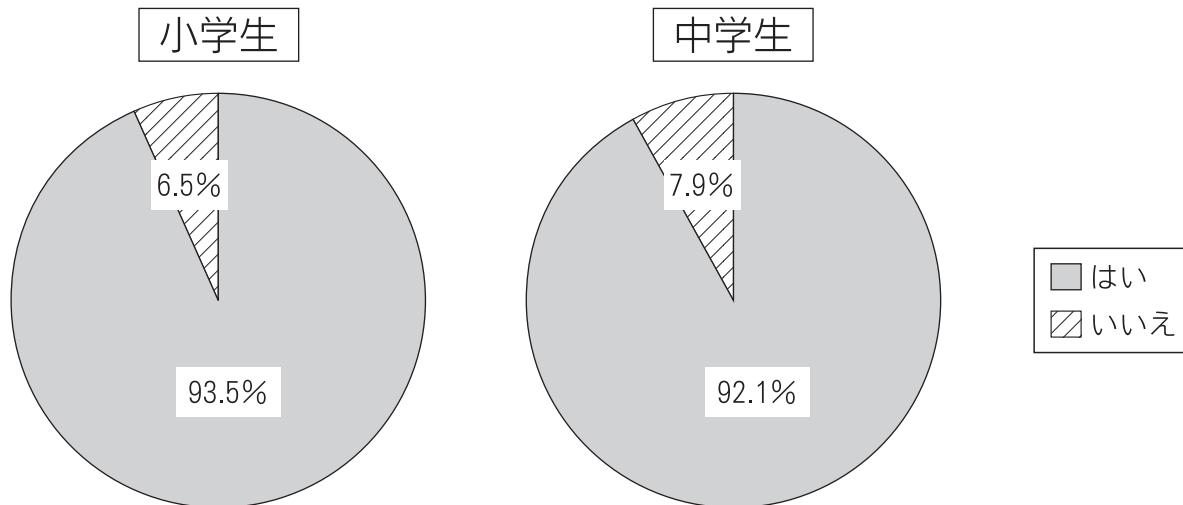
子どもは楽しい出来事を友だちや親に多く話をしていることが分かり、中学生になると、友だちに話すことが多くなっています。成長するにつれ、子どもたちにとって友だちの存在が大きくなっているようです。



II 地域・ネット社会とのつながり

① 地域とのつながり

◆ あなたは、地域の人や近所の人と親しくすることは大切だと思いますか。（小学生・中学生）



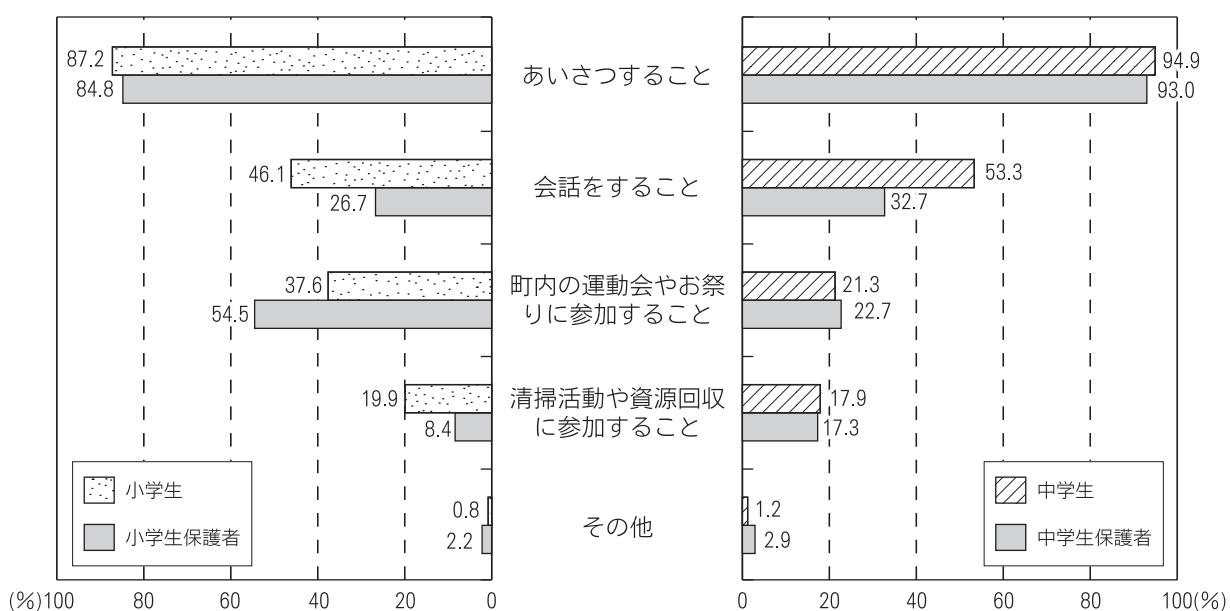
小学生・中学生ともに9割以上が「はい」と回答しました。多くの子どもたちが「地域の人」や「近所の人」といった身近な人のつながりを大切だと思っています。

近年、インターネットを介したつながりが増えるにつれて、子どもたちの交友のあり方も変わってきています。子どもたちは顔が見えない人とも容易につながることができる社会の中に身を置きながらも、日ごろから顔を合わせる人のつながりを、大切に思っていることがうかがえます。



◆ あなたは、地域の人や近所の人と親しくするためにどんなことが大切だと思いますか。
2つまで選んでください。
(小学生・中学生 複数回答)

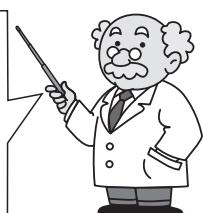
◆ お子さんは、地域の人や近所の人と親しくするためにどんなことを大切にしていると思いますか。
2つまで選んでください。
(小学生・中学生保護者 複数回答)



小学生・中学生ともに、「あいさつすること」が最も多く、保護者も同じです。登下校や近所の行事などで、日ごろから子どもたちは地域の方とあいさつを交わす機会が多くあり、保護者もそれを把握しているといえます。

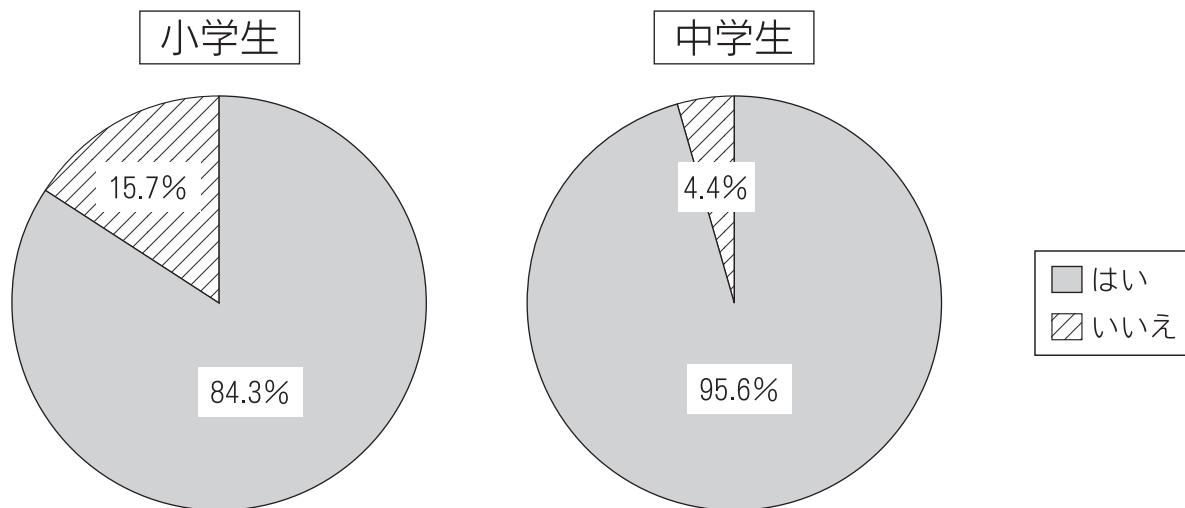
また、「清掃活動や資源回収に参加すること」や「町内の運動会やお祭りに参加すること」よりも、「会話をすること」の方が割合が高いことから、直接会話を交わすことで親交がより深まると考えていることが分かります。

多くの学校において、あいさつ運動が行われていますが、あいさつの大切さが子どもたちの心に根付いているというこの結果は、その成果だと考えられます。



② ネット社会とのつながり

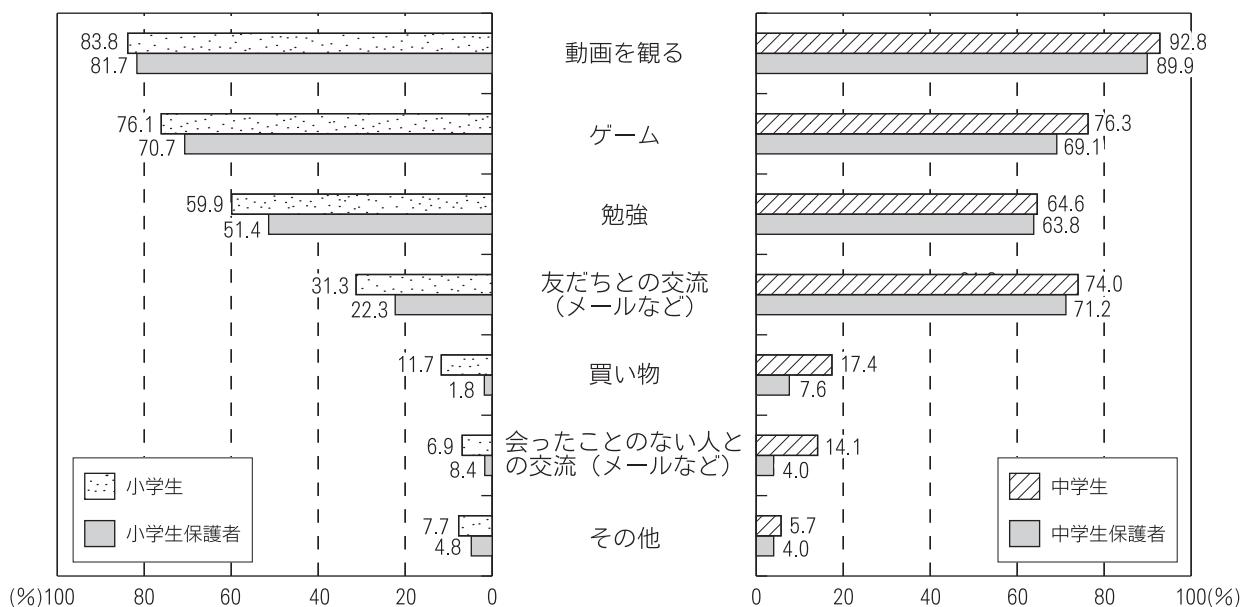
◆ インターネットを家で使っていますか。(小学生・中学生)



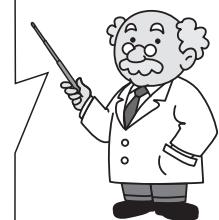
◆ インターネットで何をしていますか。(小学生・中学生 複数回答)

◆ お子さんは、インターネットをどのように利用していると思いますか。

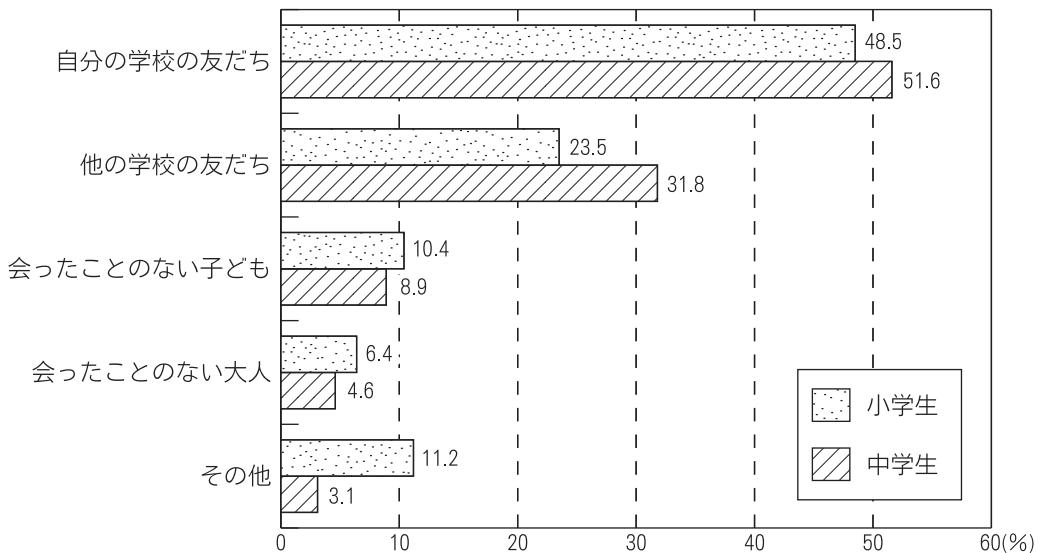
(小学生・中学生保護者 複数回答)



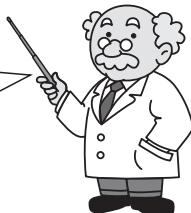
小学生・中学生ともに大多数の子どもが家庭でインターネットを利用していることが分かります。目的としては、ゲームをしたり、動画を観たりすることが多いようです。また、勉強のために使うことも多く、子どもはインターネットをさまざまな用途に活用していることが分かります。中学生になるとインターネットを使って友達と交流する機会が大幅に増えています。また、保護者が考えている以上に、子どもは会ったことのない人と交流をしたり、自分で買い物をしたりしている実態があります。インターネットは便利ではありますが、様々なトラブルに発展することがあることを、具体的に教える必要があると考えます。



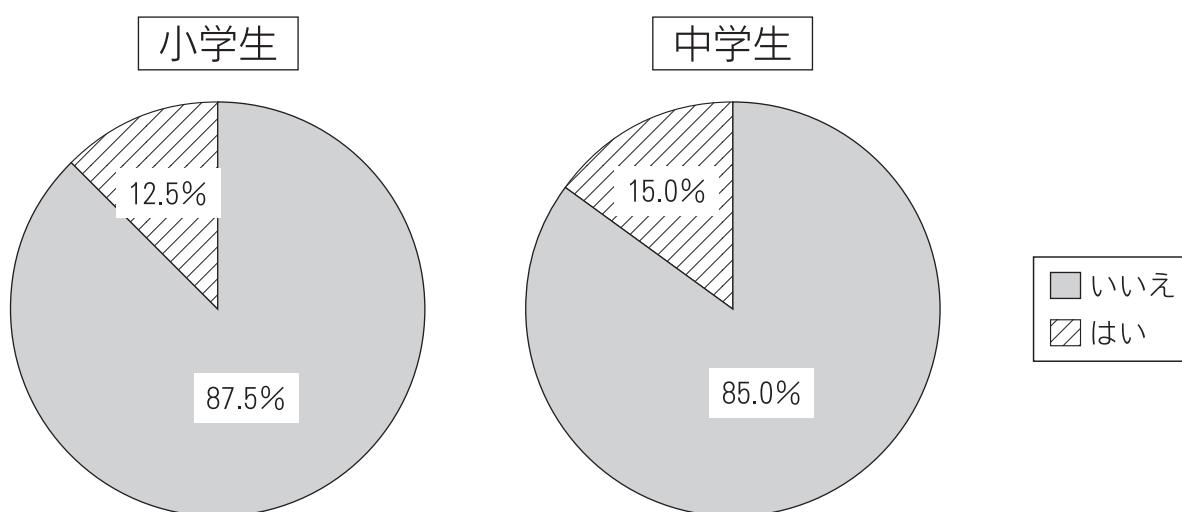
◆ 「友達との交流（メールなど）」「会ったことのない人の交流（メールなど）」を選んだ人のみ。交流している友達とはだれですか。（小学生・中学生）



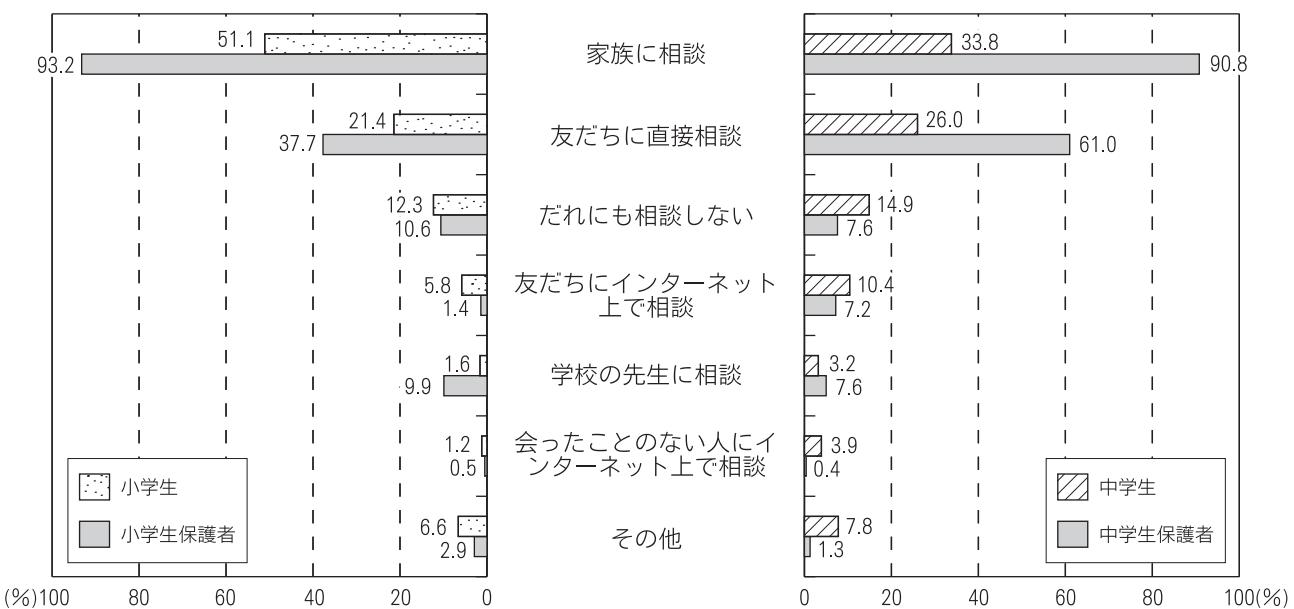
小学生・中学生ともに自分の学校に限らず、ほかの学校の友達との交流も多くみられます。会ったことのない大人との交流が小学生6.4%，中学生4.6%と少なくない状況であり、事件やトラブルにつながるおそれがあると考えられます。



◆ インターネットを使っていて、困ったことはありますか。（小学生・中学生）



- ◆ 「はい」と答えた人のみ。困ったとき、あなたはどうしましたか。
 (小学生・中学生 複数回答)
- ◆ お子さんが、インターネットを利用して困ったことがあったとき、どうすると思いま
 すか。
 (小学生・中学生保護者 複数回答)



小学生・中学生ともに15%程度が「インターネットを使って困ったことがある」という結果になっています。困ったことがあったとき、「家族に相談した」と答えた人が、小学生では51.1%，中学生では33.8%と最も高いです。しかし、これは保護者が予想する割合よりはるかに少なくなっています。

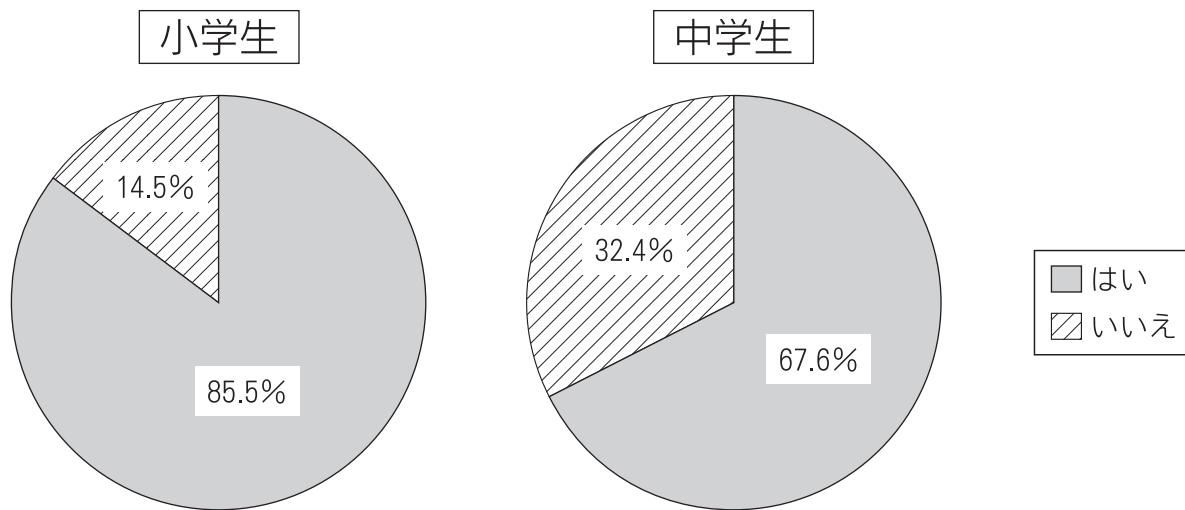
また、身近な人ではなく、会ったことのない人にインターネット上で相談したり、だれにも相談できなかったりする子どもたちもいます。教師に相談する人の割合も少なかったので、トラブルや困ったことがある場合は、まずは身近な大人に相談することが解決につながるということを教えるとともに、気軽に相談できる関係や雰囲気をつくることが必要であると考えます。



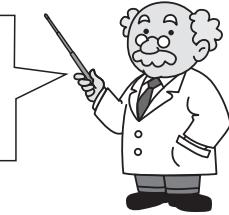
III 輝く明日に向かって

① 将来の夢・希望について

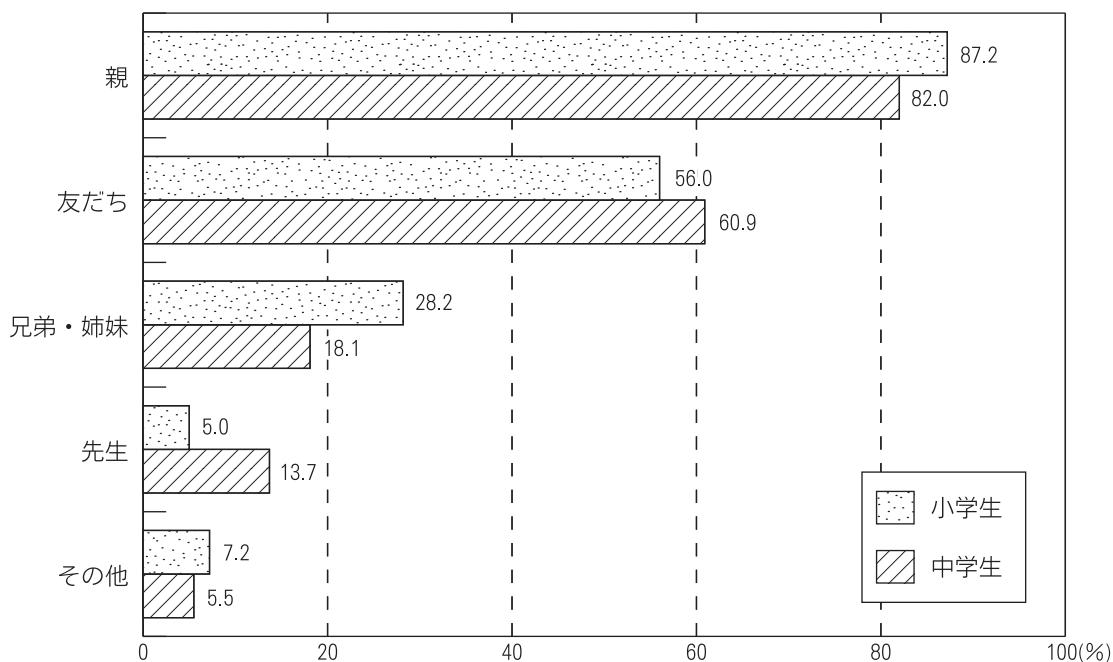
◆ あなたには、将来かなえたい夢や目標がありますか。（小学生・中学生）



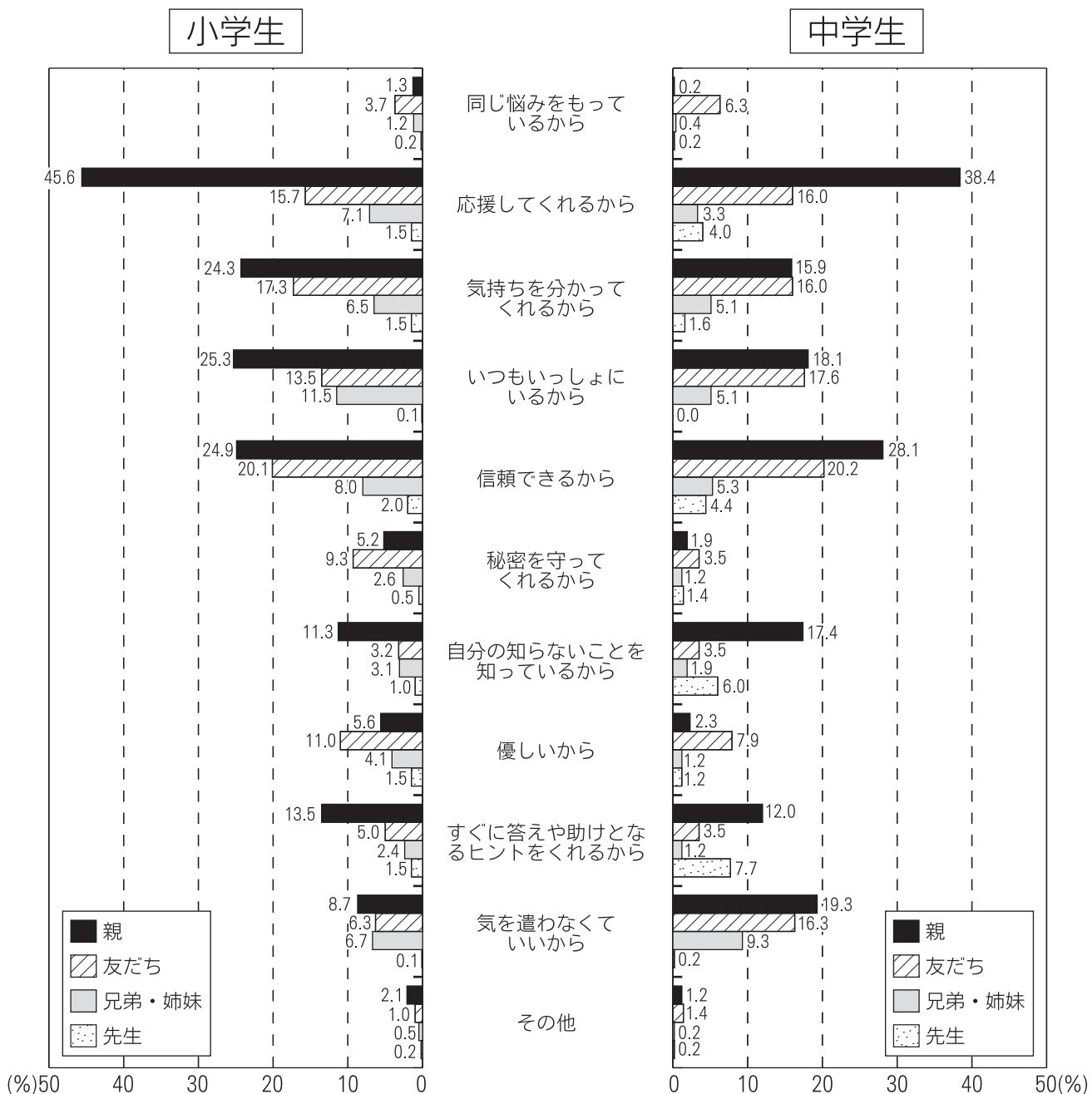
小学生は85%の子どもが将来の夢があると答えています。しかし、中学生は、その割合が大幅に減っています。中学生になると、物事を現実的に受け止めるようになるため、将来への不安が高まっていくのではないか。



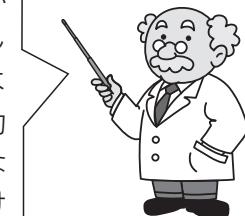
◆ あなたは、将来の夢や希望をだれに話したり相談したりしたいですか。
(小学生・中学生 複数回答)



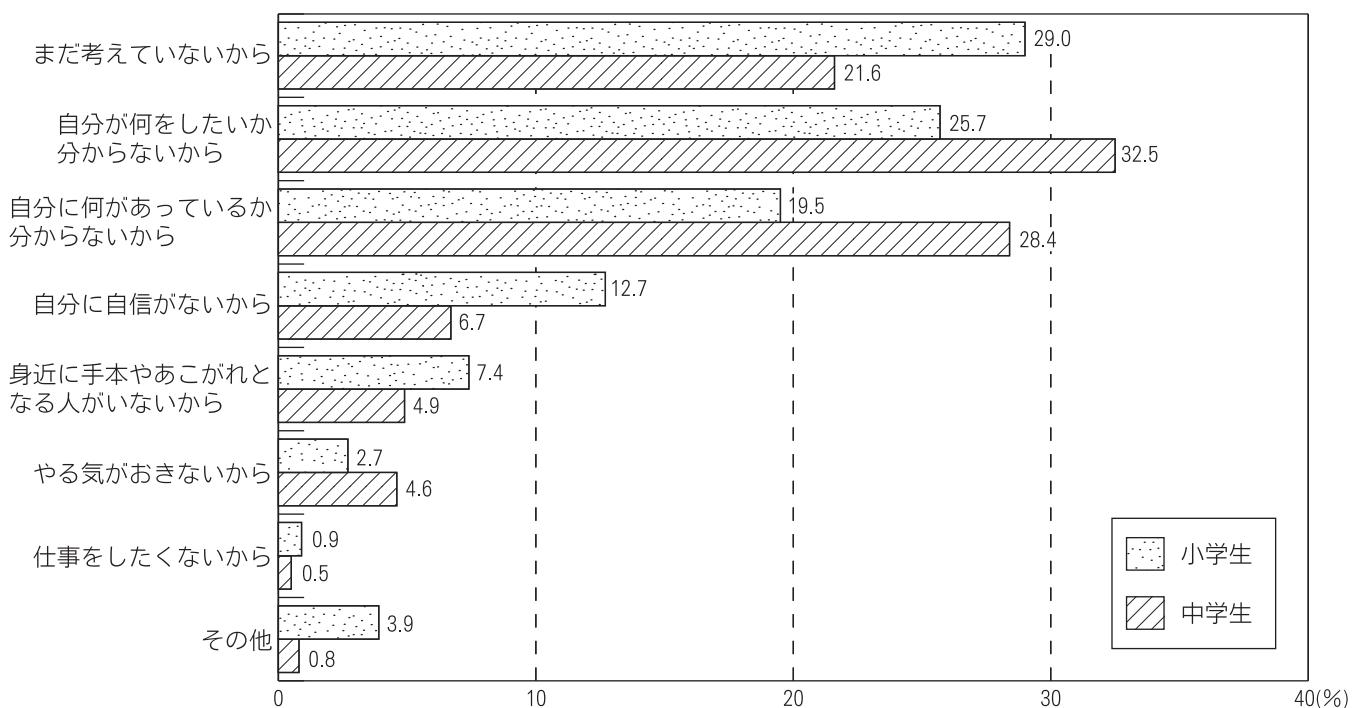
◆ 話したり相談したりしたい理由はなんですか。(小学生・中学生 複数回答)



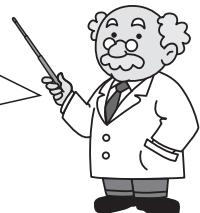
小学生・中学生ともに将来の夢を「親」や「友だち」に話すという回答が多いです。親に話す理由として、「応援してくれるから」「信頼できるから」という回答が多くあります。保護者が子どもの話をよく聞いて応援してあげることが大切だと言えます。また、中学生になると小学生のときよりも教師の割合が高くなります。その理由として、教師に対して答えや助けになるヒントを求めていることがわかります。将来の姿がより明確になる時期なので、進路について教師が具体的なアドバイスをし、夢に近づけるような支援が必要です。



◆ 将来の夢や希望が持てない理由は何ですか。(小学生・中学生 複数回答)

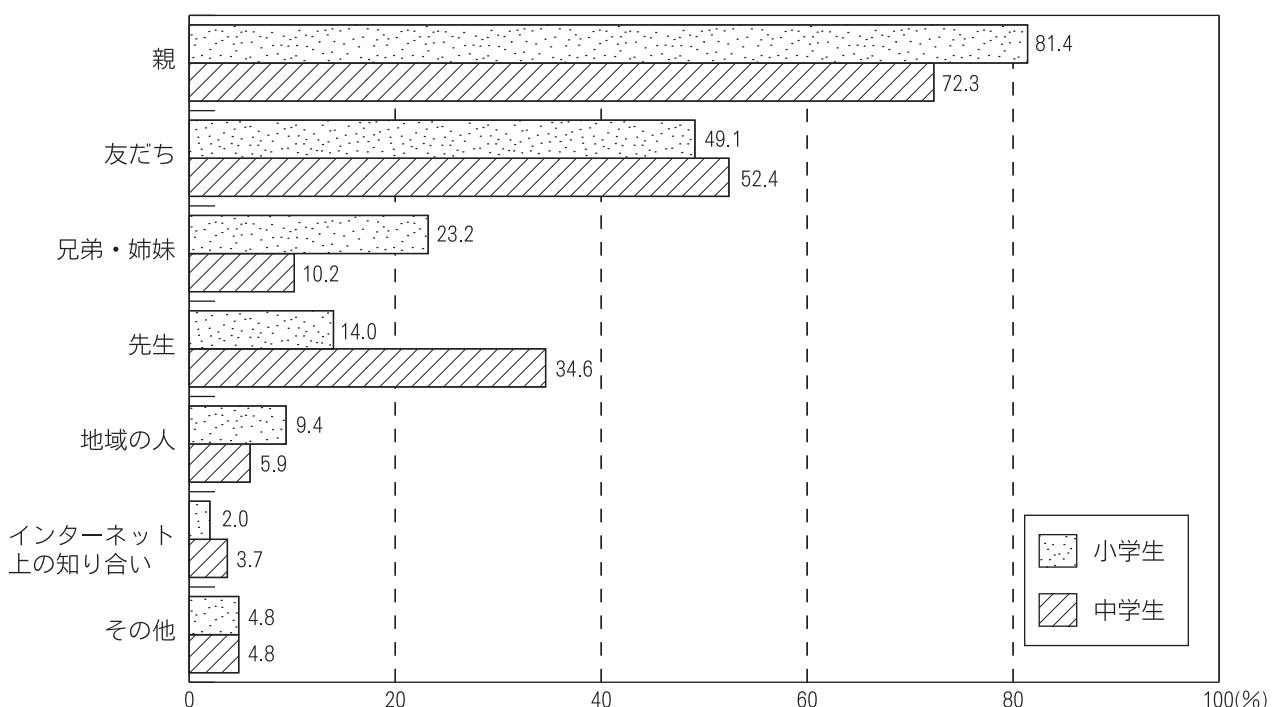


小学生・中学生ともに、「自分に何があっているか分からないから」、「自分が何をしたいか分からないから」、「まだ考えていないから」という理由で、将来の夢や希望が持てないと答えたということが分かります。このことから親や教師は、子どもに将来の姿を意識させることが大切だと言えます。

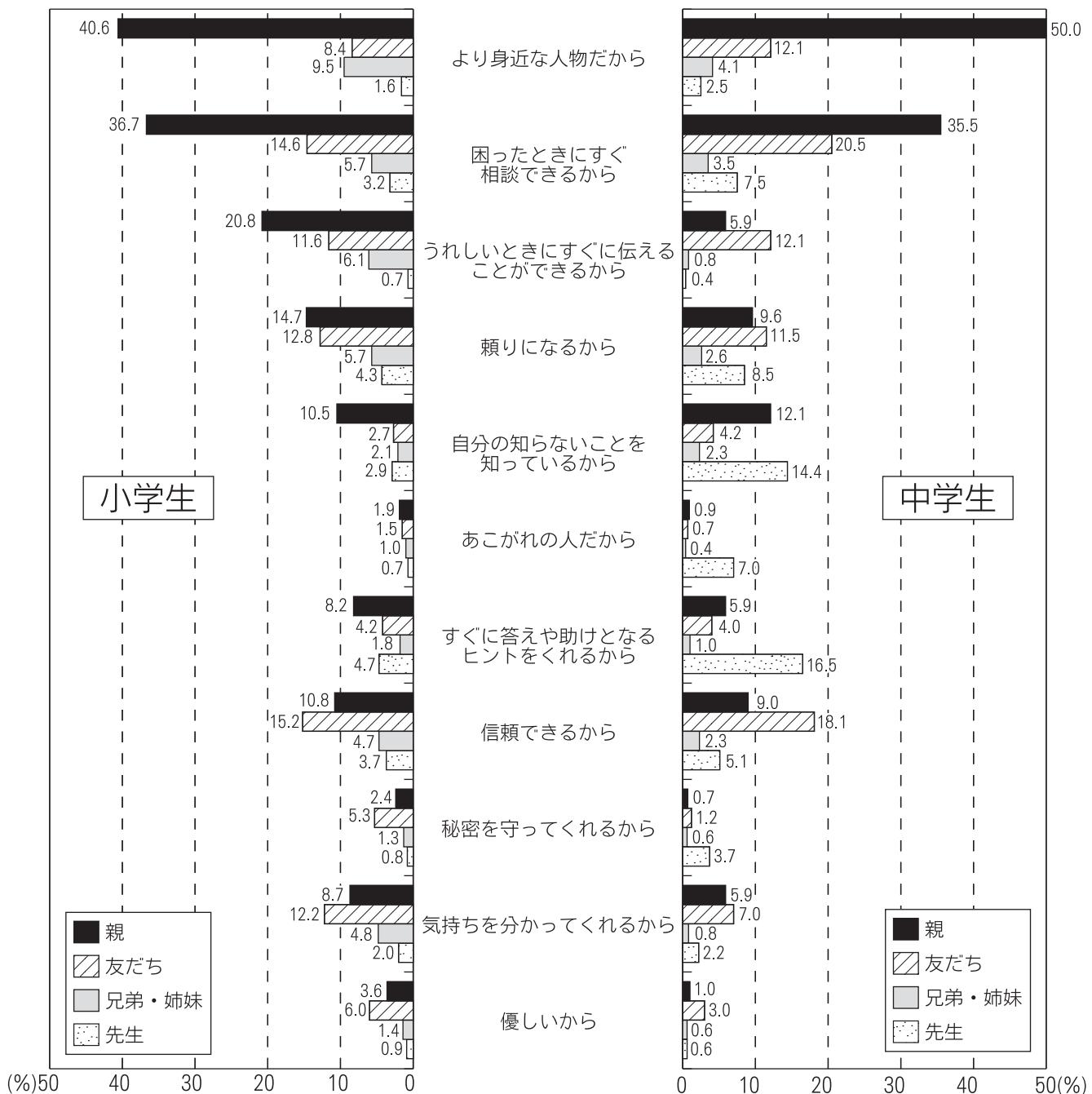


② 将来に向かって

◆ 将来の夢を叶えるために今後だれと関わりますか。(小学生・中学生 複数回答)

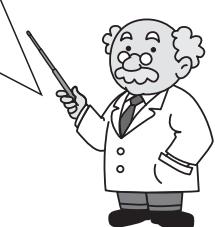


◆ なぜ将来の夢を叶えるために今後その人と関わろうと思うのですか。
(小学生・中学生 複数回答)

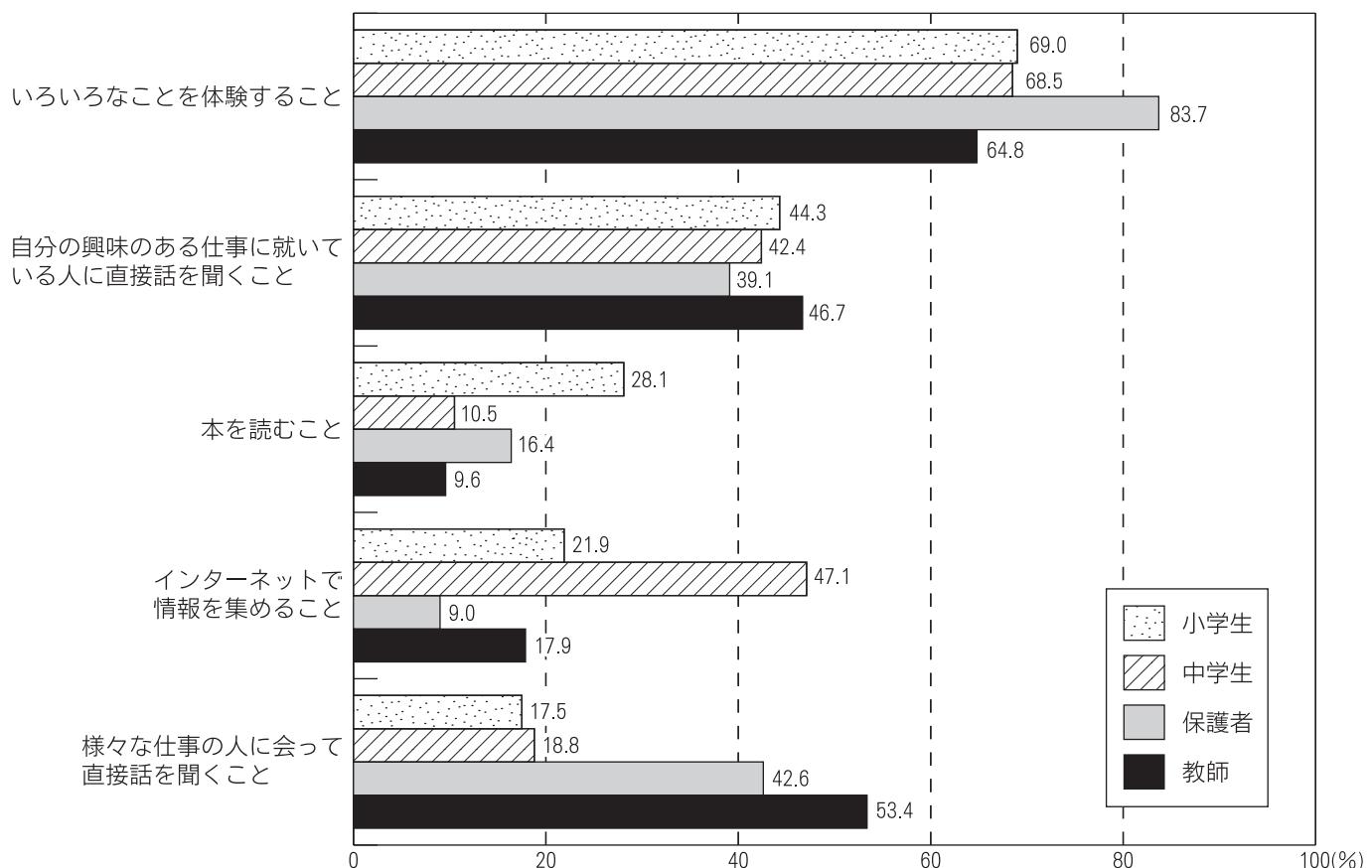


小学生・中学生ともに、将来の夢を話したり、相談したりしたい相手と同様、将来の夢を叶えるためにも親との関わりが一番大事だと考えています。その割合も同程度です。この結果からも、子どもの将来にとって保護者は一番大切な存在であると言えます。

「先生」という回答は、「あなたは将来の夢と希望をだれに話したり相談したりしたいですか。」のアンケートより3倍ほど割合が増えていました。子どもたちは自分の将来の夢を叶えるため、教師との関わりが今後大切になってくると考えているということがわかりました。教師は、子どもたちの思いにしっかりと応えられるよう、キャリア教育への理解を深める必要があります。



◆ あなたが将来の夢を叶えるために必要なことは何ですか。(小学生・中学生 複数回答)
(保護者・教師)



小学生・中学生ともに、「自分の興味のある仕事に就いている人に直接話を聞くこと」や「いろいろなことを体験すること」が、将来の夢を叶えるために必要なことであると考えていることが分かります。それに加えて教師や保護者は、「様々な仕事の人会って直接話を聞くこと」も大切であると考えていることが分かります。一方で、そう考える子どもたちは少なく、多種多様な仕事の人の話を聞くことも大切であることに気づかせることも必要です。

さらに、子どもたちはインターネット上の情報を信頼していることがアンケート結果からも分かり、インターネットは子どもたちにとって、すでに夢を叶えるための重要なツールになっているようです。



あとがき

一宮の教育白書「明日を生きる子どもたちのために」は、学校や家庭生活における子どもたちの意識や実態、保護者、教師の意識をあきらかにすることを目的として編集されてきました。

グローバル化、情報化が加速する現代において、一昔前とは生活環境が大きく変わってきており、これからも急速に変化していくと考えられます。人間関係においても、通信機器やVRなどの技術革新により、人ととの直接的なふれあいよりも、不特定多数とのインターネット上のつながりの方が増えていくのではという恐れを感じるほどです。昨今の、人ととのつながり方の急激な変化が、子どもたちの成長にどのように関わっているのか、そして、子どもたちを支える教師や保護者は、どのようにこの変化に対応していくべきかを考えていく必要があります。

そこで子どもたちが、人の「つながり」についてどう考えているのか、どんな「つながり」を求めているのかに焦点を当て、アンケート調査を行い、分析した結果をまとめました。

今後も私たち教師は、保護者とより一層の共通理解を図りながら、教育活動をすすめていく必要があります。子どもたちの心の内面を知り、問題解決に向けた取り組みの糸口として、少しでも役立つことを願っています。

なお、この冊子を作成するにあたって、保護者ならびに児童・生徒の皆様、先生方にはアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。編集委員一同、心よりお礼申し上げます。

2018年11月

一宮市教職員組合 教財部長
古澤 康至

「2018年度 明日を生きる子どもたちのために」編集委員

中村 賢人(大志小)	宮田 夕子(北部中)
小川 佳奈(瀬部小)	小田 剛司(中部中)
奥田 薫(丹陽南小)	梶浦 文生(今伊勢中)
佐藤 松雄(起小)	神永 大樹(萩原中)
古澤 康至(萩原小)	小垂 祐介(尾西第一中)

アンケート有効回答者数

小学5年生	1,291名	小学保護者	1,213名	(42校)
中学2年生	643名	中学保護者	556名	(19校)
小学校教師	748名	中学校教師	392名	

<表紙絵によせて>

ほほえんでくれる友がいる。
笑顔に、笑顔が返ってくる。
そんな子どもたちの明るい未来を願って…

表紙デザイン 舟橋 照江（丹陽西小）

2018年度 明日を生きる子どもたちのために
編集発行 一宮市小中学校 P T A 連絡協議会
一 宮 市 教 職 員 組 合
印 刷 所 (有) メディアポート
2018年11月印刷
2018年11月発行